

2022年11月4日 5:00

ダイワ通信、バス置き去り防止システム 車内点検後押し

セキュリティー機器などを扱うダイワ通信（金沢市）はバス内への子供などの置き去りを防ぐシステムを発売したと発表した。バスの最後部に顔認証機能を備えた端末を置き、エンジン停止後に運転手などが顔をかざすまで警報音を流す。大人に車内を往復させることで、降車前に人が残っていないかを確認するように促す。

商品名は「Face Roll Call（フェイスロールコール）」。警報は顔を登録している人しか止められない。登録者を大人に限れば、園児が勝手に止めることを防げる。価格はオープンだが、想定価格は20万円前後。政府は2023年4月から幼稚園などの送迎バス約4万4000台への置き去り防止装置の設置を義務付ける方針だ。

小倉将信こども政策担当相は1日の記者会見で「（補助金として1台あたり）現状18万円を予算として計上している」と述べた。同社は補助金の範囲内に収まるよう価格を抑え、約4万4000台のうち1～2割への設置を目指す。

（行方友芽）